

霧氷と青空 台高・明神平(1323m)～薊岳(1406m)
〈 霧氷回廊を行くの巻 〉

山行日 平成 24 年 3 月 11 日

参加者 伊東(報告) 北岡



3 月 10、11 日と、大山に行く予定が天候不良のため中止になった。元旦の北アルプスから毎週末の山行で疲れ気味なのでちょうどいい休息と思っ

ていたが天気予報を見ているとなんと 11 日(日)の奈良風屋方面に晴マークが並んでいるではないか・・・。

いつもの習性でこれはじっとしてはいられない。かと言って今から未踏の山を調べるには時間がない。ということで通い慣れた明神平から薊岳まで足を伸ばすことにした。情報収集のためネットで調べていると 3 日前に行った人の記録があった。連日の雨と気温の上昇のせいか写真では霧氷はおろか雪さえ少ない。まあ期待せず明神平で善哉でも作ってゆっくりしようか。

近鉄布施駅で相棒と待合せ 6 時 20 分出発。大又まで凍結もなくスムーズに走り 8 時 20 分駐車場に到着。辺りには雪のかけらもない。スノーシューは車に置いていくことにした。準備をして 8 時 27 分スタート。

上空はすっきり晴れ渡っているが相棒は「稜線は曇っているかも」とテンションが上がらない。これも今シーズン稜線で青空を見ていないというトラウマか！！(笑) いつもながらの駐車場からの長い林道歩き。大又川はかなりの水量でゴォーゴォーと音を立て流れている。長い林道を終え登山道に入ると去年の台風 12 号の爪痕はここにも深く残っていた。道の中央が抉られ無残な様相を呈していた。柵はなぎ倒され落石崩落がいたる所に見受けられる。自然の恐ろしさを目の当たりにした。





最初の渡渉は水量が多く足を置く石が滑り緊張した。その後も数回渡渉を繰り返す。明神滝の手前辺りから登山道にうつすらと雪が。今日は体が重くなかなかピッチが上がらない。山腹を巻く九十九折れの斜面を登っていくと、上方から歓声が聞こえる。まわりの山に霧氷が付き徐々に登山道のブナの木にも霧氷が……。まさしく霧氷回廊。青空に映える霧氷に何度も立ち止まりカメラのシャッターを押す。ああ今シーズン初めての霧氷の白と空の青のコントラスト。途中視界が開けたところで真っ白に化粧をした薊岳が姿を見せてくれる。テンション全開。まわりの景色を堪能していると明神平に到着。

あしび山荘前の木に付いた霧氷が美しい。

冬の明神平はとにかく寒い。凍える思いを何度か経験しているが今日は無風で太陽の恵みで暖かい。少し早いシートを広げカップラーメンを食べる。今日は風をさけるため天理大学小屋裏に避難することなくツエルトを被ることもない。青空の下、見渡す限りの霧氷。360度の展望を楽しみながら至福の時であった。あまりの絶景に長居し過ぎてしまった。先を急がねば……。三ツ塚分岐までのゆるい登りもまたまた霧氷回廊。しだれ桜のように垂れ下がった何本もの枝に霧氷が付き、写真を撮りながら一向に前に進まない。

三ツ塚分岐を右にとって薊岳方面に進むが他の登山者達は桧塚、明神岳へ行くようだ。見かけたのは途中で引き返した写真撮影の単独者だけである。幾度かアップダウンを繰り返す。まだまだ霧氷回廊は続くが太陽に照らされた霧氷がパラパラと時にはドスンと音をたて落ちてくる。

痩せ尾根を過ぎると狭い薊岳山頂である。

写真を撮り一息ついているとすでに 14 時。この頃から雪がチラつき始めた。ここまでつば足で来たが所々凍っている所があったのでここでアイゼン装着。来た道に戻る。14 時とはいえもう夕暮れのように薄暗くなってきた。時間に少し焦りを感じながら急ぎ足で下る。だんだん雪も本降りに、風も出てきた。前山の登り切りでは息も絶え絶え。ガスが出てホワイトアウトの様相。「風雲急を告げる」松田優作のセリフ「なんじゃこりゃあ」状態に……。一部ショートカットしてとにかく先を急ぐ。明神平に着いた時はホッとした。だんだんと雪も横殴りになってきた。最後の渡渉を終えたところでアイゼンを外しひたすら下る。林道に出て車が見えた時には本当にホッとした。何度か持ち歩いている善哉セットを今日も食べることが出来なかった。やはた温泉で冷えた体を温め帰途に着いた。

コースタイム (8 時間 50 分)

大又駐車場 8 : 27

林道ゲート 8 : 41

あしび山荘 10 : 52—11 : 32

(昼食)

三ッ塚分岐 11 : 56

前山 12 : 06

標高点 1321 12 : 25

標高点 1334 13 : 07

薊岳 13 : 43—14 : 00

標高点 1334 14 : 19

標高点 1321 14 : 54

前山 15 : 16

あしび山荘 15 : 31—15 : 35

ゲート前 17 : 07

大又駐車場 17 : 17

